太政官文庫
三一八三八號
二一九函
八架
三冊
和書門
内閣文庫
三一八三八號
二〇一函
一五架
三冊
和書類
内閣文庫
番號 和 31838
冊數 3 (2)
函號 201 529

青柴本 寮本

建仁元年三月廿日御歌合 十六番 八番 左勝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

[illegible]

秋

[illegible]

[illegible]

津の国のなにはのあしのかれはてぬ
ひはいさ来の月の雨もきてしまの
冬ふかうなりて雨のかりとさそふ
ふきたなる松のうらとをとはれ
見やりて波とをとはれとをとはれ
う海やあは波のうちとをとはれ
ふるさとの松
ふるさとの松のうらもかれ
ともまのうらしほもなさ
ゆふ
ゆふまのあしの
西のうらの
[illegible]

雜

[illegible]
波のうちのうらのうらのうらのうら
[illegible]
[illegible]
なつむきの松のまの
波のうらのうらのうらのうら
[illegible]
[illegible]
[illegible]

建仁元年九月廿六日御歌

初霜侍花

雪きえぬ山路の花もあるかとてをりはやまれぬ木末ごとに

山花遍

大方は花かとまがふ雪の色に春をしらぬ山の白雲

郭公

時しらぬ山の花にはあらねども郭公なくこゑぞ聞ゆる

遠村花

霞ゆく遠の山べの桜花ちりぬるかとぞ見えまがふる

所聞花

ときわかぬ春野の雪のあけぼのにそこはかとなくにほふ山もん

田家花

庵ちかき山田の畑のあぜぶかみ春をしらぬ花ぞ咲きける

花似雪

春ごとに山べにまがふ桜花ちりぬるかぜ雪とこそなれ

花似雲

春ごとに山べにまがふ桜花ちりぬるかぜ雲とこそなれ

河辺花

春野川のきしの花とおとめ子の乃んもまがふ

深山花

[illegible]

春春毛

[illegible]

古渓花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松間月

[illegible]

山路月

[illegible]

月前千鳥

[illegible]

野径月

[illegible]

澤辺月

[illegible]

海辺月

[illegible]

月前紅葉

[illegible]

月照滝水

[illegible]

松月

[illegible]

月前虫

[illegible]

月前秋風

[illegible]

沼上月

みよしのゝあれもさこそはれもとみまし

月前虫

わすれ

ものさびもなしやあきの乃蓼やうゑもさかりの乃月

月前雁

孤雁

孤沼月

舟こもりなれのとまりもあるかときこえぬ月かな

月前菊

月前

夕霧やとこの月ゆくやまの野の小萩ふるえてをしを

菜畑月

ゆきくもるつゝみのさなかやあらきの乃月

菊秋暁月

秋もいるあしたのあきこのうらの月

寄雲恋

我恋ゝ嶺よりそらのやくきこえぬ

恋の風恋

我独よ寝ぬまもいきのうをあらしの風乃高

恋の雨恋

ものゝ人ゝ月よりなくさきの乃雨そさ

恋の月恋

独よとゝ寄の白はをゝあきの月

續古今

ゆく末月

くる月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我宿の桜の花の盛り過ぎぬるかとみえわけぬ雪の
都にそこはかとなくなれるのハなきつるのこゑ
村雨のつゆ露のみなかとそうるおもはぬ
人のうらのまくさ枯れ山のとやまとやもくれ
ゆくとも立田のもりのよなかなく蛙のねをく家も秋を
秋

秋くれぬとつきなかとそ
さをしかの風をみてぬるかとそ
こまをあらこ寝ぬるかとそ
うきとよとこの夜のつもれるを月を
寝のなをくそこそぬる池のとをあやとと月と紅やらん

うの花の白とそ毎とれあとなるむきあ無家秋の秋を
秋

秋の月みちよりあり無立田山の月の月は枝をし
冬ハ冬のあらしよりよぬるかとそ
冬の数すく山下の落葉ひとへあさをひとへ
網代なといさよふ流やこほるらんかちの川風
冬ハ山のとの野の岩ねしくるる初山の月
とをさうり波もをるとそこほりとわるる山風

雜

年の夜池のうちまつ松の波よるとをうる
春の月清見ヶ浦とをうん流の笑をるうちに移るん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野原もうすのゆうとゝ〇〇〇秋をとゝ
ゝ〇〇〇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋

[illegible]

冬

[illegible]

山ひこのやまの神やかはと西のかんなりのこれやかはと
市去郡乃ゝとの村えん乃家さてゝまつ[illegible]
さゝ[illegible]さて煙とゝ[illegible]
と[illegible]

雜

あしの葉の[illegible]
月ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋

四三年二月日 若宮

[illegible]

八月

[illegible]

夏

[illegible]

秋

[illegible]

[illegible]

冬

冬よりの間いなるの乃こゝろ（みな）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬きてもそら匂のあふるみとり外いつらときはのもりの木からし

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第元二年二月四日三十首ゆ之の

春

春をまちなくはつそて去野山霞乃小松もせ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

うゝれのはなや若よれたゝん谷ゝちそれの羽ほの花
郭ゝよゝれたゝものの陰ゝ山のはゝ雲ゝ

うき世とやさのゝのゝ山の時鳥たゝこゝ
時なるもゝ井れゝのゝゝゝゝゝゝ

きゝのゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

世中を渡よいとゝ人やあるとゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の夜のいとにぎやかなる夜なれば

秋古

秋の夜の月のやどりとなるべかりし夜なれば

ものさびしくてもてあそびしほどの名残

未だ見えむ夜の小さき名残りやうやうてる月

を見てよりはかなくもとこそきえるしやまこの月

独りみるべき月のかげのかさいるとてとまりてとまりん海の秋

冬

いまやさ雲乃ゆくへもあらぬ河面に月乃浮て

あるもうちの星へりしとせとうとやうや独わたん

山里ゆうの末乃あさ霧ひとしきりうつる

冬の夜乃まうちをよ月乃ぬさ

秋

かさ松乃独りやとる夜ふかん二月の松乃

冬ときまつ雲野乃松の雪乃ゆふ乃新ハ

雜

うきものとてもとゝまる池乃水乃ゆくへ

前つ方きしの色と松乃ゆくへ

波のしら独の松のあくる海ちとめ乃月乃新もとゝ

新千

なりむ色はさこ乃ゆくとなく独わ色ゆ

山里のくれのあしよさめてあり

独りやとそくるまの

第元年十月家歌勝哭と流涕よ

雲中野

わるつむ春日の原乃若草を摘て
吉野山
花ゆへ[illegible]乃摘ちらすあしたの雨に
三輪山
三輪の山杉のこゝろ[illegible]
龍田山
其のゝ[illegible]秋も三田乃[illegible]
沼瀬山
はつせ山のゝきりの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

交野

[illegible]

[illegible]

水無瀬山[illegible]

次麿海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

餘庭市

[illegible]

松海山

[illegible]

同幡山

[illegible]

高砂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
大井川
大井川流のまへ[illegible]
島田
[illegible]
伏見里
[illegible]
泉河
[illegible]
小淵山
[illegible]

[illegible]
書坂山
[illegible]
志賀浦
[illegible]
鹿山
[illegible]
二見浦
二見ヶ月[illegible]
大浦海
[illegible]
鳴海浦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さくらもみぢのさかりなるをみるにつけてもいとあはれなり

恒寛法師

ちやまるやまとのくにのうきはなのつゆにぬれてはよるのあけぬる

建暦二年十二月十首歌 中宮大夫 百首

春

ちはやぶるかみのいがきにはるかすみたちにけりとはるのあけぼの

いかばかりのこころのうちにはるのきてはるのあけぬるときぞかなしき

あさみどりのいとにあらねどはるのかぜにみだれてなびくあをやぎのかな

あをやぎのいとにはるのかぜふけばみだれてなびくはるのあけぼの

なにはがたみじかきあしのふしのあはばこのよをすぐしてあはむとぞおもふ

秋

旅人の袖ふきかへすあきかぜにこよひばかりの月をみるかな

こよひたれ月をもてあそぶらんあきのあはれをしるつまもがな

なにはがたあしのまろやのあまのこのあはれをしるはあきのかぜかな

中くにおりのこころはあきのかぜにあはれをしるはあきのかぜかな

ちはやぶるかみのいがきにはるかすみたちにけりとはるのあけぼの

白妙の袖ふきかへすあきかぜにこよひばかりの月をみるかな

ながめつるこよひのつきのあはれをばあきのかぜにぞ人はしりける

ながめつるこよひのつきのあはれをばあきのかぜにぞ人はしりける

ちくさにものをおもふあきのかぜにこよひばかりの月をみるかな

ちくさにものをおもふあきのかぜにこよひばかりの月をみるかな

ながめつるこよひのつきのあはれをばあきのかぜにぞ人はしりける

ながめつるこよひのつきのあはれをばあきのかぜにぞ人はしりける

述懐

人ゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

池上月

ひ沼澤の池もとあり月新や若しとうへも殘なるらん

野亀虫

夜まはしこえきき殘す蘆の穂に虫のもとゝ秋乃夫風

同九月中会

秋風

白新しも吾門とまとて秋をもやれ横川乃さ流乃

山の草

まきてもつるしもいとあれしのあの草

落花

山の春の月新や花の雪ちらしてあへもとゝ乃夫

[illegible]

[illegible]

河島

新しうちいくしのうちとなりんあれとあとやとあり

海月

秋の月沼沼もとくくうもさえくくとまのうしう粉

山風

うもとのみち新久さ風あしとつよ秋の吹四よ

曉雲

なりもとくくうもやもと風うくちまの雲とありの乃水

夕馬

[illegible]

年をしあきはかとられて我身に縁の松はまちとうとぬく

九月盡日三吟百韻

月華の秋

[illegible]

暮見紅葉

[illegible]

曉更月

[illegible]

月十月二日三吟百韻

初冬月

山行や[illegible]

[illegible]

[illegible]

枯野辺

[illegible]

日日三吟百韻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十一月十一日彩宮千人當座

秋夕風

持　奥親

海邊家

月主

腸

古る郭公

家隆

夏

秋月

宰連

持

乞家

立田山木葉の色ゝ秋なれは時雨

国立公文書館
National Archives of Japan